

# 「竹中靖一著「六甲」より」

保久良支部 清田 國彦

昭和8年発行の「六甲」と言う本を先輩から頂きながら20年も積んで置いたのを、この度の新型コロナ騒動で時間に余裕が出来、初めて全文に目を通して見た。

しかし内容は六甲の名称に付いての考察から、地質、成り立ち、和歌、俳句、漢詩、伝説、地名と多岐に渡り、あまりにも広範囲なので今回は、先ず魚屋道一本に絞り、昭和初期、あるいはそれ以前の名称と現在私達の使っている名称を添え分かりやすくしてみました。



(本山北町まちづくり協議会HPより/ネット画像)

「魚屋道」は皆さん知っての通り、深江浜から真北に進み森稻荷社の西側に沿って山に入り更に北へ登りつめると松山の尾根に出た処が蛇巻岩と言い現在は蛙岩と称している。

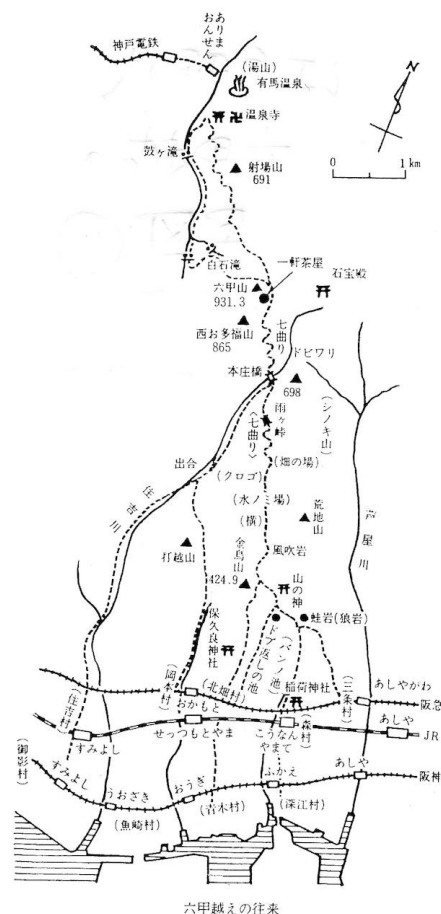
この松山の尾根の北側の谷が、梅谷（現在も同じ）更にその北側の尾根が狸山（現在は皆が式守道と言っている。たぶん猪にかけた名だろうが、この尾根には猪は入ってこない）と言ひ、その北の谷が鬼谷（地獄谷）その北がロックガーデンで昭和30年頃までは明るく美しい庭の様な本当にロックガーデンの名の通りだった。

先程の松山尾根の蛇巻岩（蛙岩）を西へ進み山の神（今は深江大日靈女神社に移されている）の先、大藪谷の源頭に沿って直角に曲がり北へ向かう、そして屏風岩（風吹岩）（この辺りから横ノ池にかけて当時あるいは昔から横と称していた。）から西へ、少し登り北へ進むと左手に瓢箪池その少し先に猪口池がある。

現在は横池雄池・雌池と称している。横池の

北を西へ進み、又、北に向きを変えると、しばらくして夏でも水が涸れない所に出る。このあたりは当時、中畑奥山池（現在の奥池で住宅地になっている）と逆瀬川の三角洲と並ぶキャンプ適地だと言っている。北へ進み岩山に突き当たると又、西へ進み、黒五谷の所で又、北へ向う、昭和の初め頃は素晴らしい登山コースだったろうが現在はゴルフ場の中を通ることになる。

この辺りから見える山がシノギ山（現在、東お多福と称しているが、当時お多福山とは西お多福山を指す）で一名花原の峰とも言う、魚屋道はこのシノギ山の九十九折の坂を登り現在雨ヶ峠と称している所に出て左の住吉川に下ってゆく、本庄橋（今は流されてしまって地名のみ）を渡り、東谷と三条谷の間の七曲りを登って大山（六甲最高峰）に出る。先はどのシノギ山を住吉川へ下る途中、住吉道を左に合する。ここから有馬へは住吉道となっている。現在は有馬まで魚屋道と称している。



(本山北町まちづくり協議会HPより/ネット画像)